

地域の森から学童保育所 +αを 木造化、街に森を創るプロジェクト



森と子ども未来会議は「伝統構法×協働」で「地域の森から学童保育所+αを木造化」する団体です。立ち上げのきっかけは名古屋市内の山里学童クラブ。全国には24,493か所、36,094支援単位の学童保育所があり、1,404,030人の児童が入所(2023年5月1日現在 全国学童保育連絡協議会HP*より)していますが、学童保育所の3割程度はプレハブの施設だと言います。1981年に誕生した山里学童クラブは長い間プレハブでしたが、夏は冷房が効きづらく冬は寒い、音は中にも外にも響きやすく、子どもたちが過ごす環境としては過酷なものでした。

森と子ども未来会議の発起人の一人で代表も務める鈴木建一さんが、一級建築士の東海林修さん、学童保育所の関係者の方と意気投合したことがきっかけで、学童保育所の木造化プロジェクトがスタートします。

山里学童クラブの木造化を実現したのは、板倉構法。柱と梁の間に板を落とし込む構法で、日本古来の神社や穀物倉庫を作ってきた優れた木造建築技術を応用したものです。木を太く厚くあらわして使うことで、耐震性も防火性も高く、温度湿度の安定した室内環境を実現します。また、木材は、音を適度に吸収するため、子どもの声やピアノの音が心地よく聴こえるなど、人の生理面や心理面に良い影響を与えたりすることが各種実験でも確認されており、学童保育所でも子ども達が落ち着いて遊んだり勉強できるようになったとの声が聞かれるそうです。板倉構法は施工だけでなく解体も容易で移築も可能なため、借地の上に建つことの多い学童クラブの施設としてはもってこいでした。

森と子ども未来会議

地域の森から学童保育所+αを木造化、街に森を創るプロジェクト

発起人の鈴木建一さんが額田木の駅プロジェクト* 常任委員を務める縁もあり、山里学童クラブの木造化には、岡崎市内の事業者が大きく貢献しています。木材の提供は一般社団法人奏林舎ほか岡崎市額田地域の林業事業体が協力し、製材は株式会社しらい、有限会社山岩木材、板倉のパネルの作製は小原木材株式会社が担当しました。森と子ども未来会議では、山里学童クラブにはじまり既に10近くの学童保育所の木造化・木質化を手掛けていますが、愛知県内におけるプロジェクトで使う木材のほとんどは矢作川流域の山々から伐りだされたものを使用し、地域内での資源・資金循環を促進。従来、木材の流通には原木市場や製材工場、木材業者等いくつかの事業者が関与していますが、森と子ども未来会議が中心となって情報共有を行うことで山と街が直につながり、良い森・街づくりに貢献しています。

*全国学童保育連絡協議会 学童保育実態調査 2023年度放課後児童クラブ実施状況調査より

<https://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/index.html>

*額田木の駅プロジェクト 出荷しやすい短い間伐材を通常よりも高く買い取り森林整備を促進する取り組み

<https://nukatakinoeki.blogspot.com/>



まだまだ
SDGs



より良い保育のために施設の木造化を考える「学童保育の木造化勉強会」や、一般社団法人奏林舎、株式会社しらいの協力のもと岡崎市内にて、学童保育所の子どもと保護者を対象にした「森とまちをつなぐきこり&製材体験」なども実施しています。子どもたちや保護者が、地元の森林や自然環境、木を通じたなりわいに触れる機会にもなっています。



板倉構法は木材を太く厚く使います。同じ広さの建物を建てる場合、一般的な木造建物と比較して木材をおおよそ3倍使うため、木材のCO2の固定量も約3倍。壁、床、屋根をスギの厚板2枚張りとし、間の空気層とあわせて、温度湿度の安定した夏涼しく冬温かい室内環境をつくるため、冷暖房機器による電力消費抑制にもつながります。

森と子ども未来会議

最新情報は Facebook をご覧ください